

## 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の検証

## 1. 数値目標の状況

基本目標	数値目標		現状値	実績値
【基本目標1】 地域経済のプラス成長と雇用の創出を図る	市内総生産額	6,500億円 (H30年度)	5,731億円 (H23年度)	6,074億円 (H27年度)
	従業員数	8万人 (H32(R2)年)	7万1千人 (H26年)	※7万2千人 (H30年)
	延べ宿泊客数	157万人 (H31(R1)年度)	129万人 (H26年度)	153万人 (H30年度)

※従業員数の実績値については、H28経済センサスの従業員数を基に都市経営課で推計した暫定値です。

## 2. 主なKPIと状況分析

KPI		現状値	実績値	分析
釧路港年間水揚量	120,000t (H31(R1)年)	117,779t (H23~26の平均)	121,878t (H30年)	外来船誘致活動を推進したことにより、まき網漁業による水揚げが増加した。
生乳生産量	72,174t (H32(R2)年)	67,755t (H26年)	70,841t (H30年)	生産者による乳牛の増頭や農業農村整備事業等による飼料改善などの環境整備によって生産量が増加した。
食料品製造業粗付加価値額	25%増 (対H25年比)	97億円 (H25年)	132億円 35%増 (H28年)	設備投資や機械化に向けた技術支援、新商品開発支援などを推進したことで生産性の改善につながった。
延べ宿泊客数	157万人 (H31(R1)年度)	129万人 (H26年度)	153万人 (H30年度)	阿寒IC開通や航空路線拡充などから順調に推移したものの、H30年度は北海道胆振東部地震の影響が表れている。
釧路空港乗降客数	74.6万人 (H31(R1)年度)	67.3万人 (H26年度)	81.2万人 (H30年度)	夏場の観光需要増加や機材の大型化、新規路線の就航によって順調に推移した。

## 3. 施策の推進状況

推進状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業を支援するため、新規創業・経営相談のワンストップ相談窓口を設置し、地元企業の経営基盤強化を図った。また、H30年度には、釧路市ビジネスサポートセンターk-Bizを開設し、企業の稼ぐ力を高める取り組みを推進した。</li> <li>・働きたい方の希望がかなうよう、関係機関と連携して求職者と企業とのマッチングを推進したことで、特に女性と中高年齢者の雇用創出につながった。</li> <li>・地域経済のプラス成長を目指すため、宿泊、交通業のみならず、幅広い業種に波及効果がある観光産業をリーディング産業と位置付けたうえで、日本版DMOの構築を進め、観光立国ショーケース事業を中心に観光振興施策を推進したことで、延べ宿泊客数はH26年度に比べ24万人増加の153万人と順調に推移している。</li> </ul>

## 4. 今後の主な課題

課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間水揚量や生乳などの1次産業の生産量は順調に推移しており、引き続き、農地など産業基盤の整備を進めていくことが重要になる。また、生産者の高齢化が進んでいることから、担い手確保に向けた取り組みも課題となっている。</li> <li>・人口減少による地域内消費の縮小が懸念されるため、引き続き釧路市ビジネスサポートセンターk-Bizを中心に、地元金融機関など関連団体と連携し、企業の「外から稼ぐ力」を強化することで売上増強を図り、雇用を支える地元企業の体力を高める取り組みが求められる。</li> <li>・生産年齢人口の急激な減少によって、企業の人手不足が深刻化しており、人材定着支援や求職者と事業者の就職マッチングの機会を増加させることが課題となっている。</li> <li>・観光などの交流人口の拡大については、延べ宿泊者数が順調に推移していることから、引き続き観光入込客の誘客に努めるとともに、今後は地域内での回遊性を高め、宿泊客の消費額を高める取り組みが課題となっている。</li> </ul>

## 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の検証

### 1. 数値目標の状況

基本目標	数値目標		現状値	実績値
【基本目標2】 釧路らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す	転入者数	8,000人 (H31(R1)年)	6,302人 (H26年)	6,218人 (H30年)
	長期滞在者数	1,200人 (H31(R1)年度)	854人 (H26年度)	1,353人 (H30年度)

### 2. 主なKPIと状況分析

KPI		現状値	実績値	分析
UIJターンの推進による就職数	25人 (5年間累計)	—	34人 (4年間累計)	関係機関と連携し、登録企業数を増加させるなど、UIJターン就職に関する取り組みを推進したことで就職者の増加につながった。
人口の社会減	5%縮小 (対H26年比)	880人 (H26年)	676人 23.2%縮小 (H30年)	H26年には880人減少だったところH30年は676人減少と社会減の幅は抑制されており、15～19歳の転入超過が大きく影響している。
長期滞在者数	1,200人 (H31(R1)年度)	854人 (H26年度)	1,353人 (H30年度)	ホームページやガイドブックの作成、大都市圏でのPRイベントへの出展等により、避暑地釧路の認知度の向上が寄与し、滞在者数の増加につながった。

### 3. 施策の推進状況

推進状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークなど関係機関と協力し、UIJターン事業を推進したことで求人事業者数、および就職者数の増加につながった。また、民間経済団体など官民が連携して、UIJターン就職個別相談会を実施することで、就職者数の増加につなげることができた。</li> <li>・釧路市の気候特性である夏季の冷涼な気候を生かした長期滞在のPRやスポーツ合宿などの釧路滞在誘致活動を推進した結果、長期滞在者や観光入込客数の増加に寄与した。</li> </ul>

### 4. 今後の主な課題

主な課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季の冷涼な気候を生かした長期滞在者の誘客などに一定の成果が見られる。今後は、年間を通じた居住物件の稼働率向上に取り組むほか、現在来釧路している滞在層から誘客対象を拡大し、ノマドワーカー等の場所を問わず働ける方の誘客も必要である。</li> <li>・H26年度に比べ、社会減は抑制の傾向にあるものの、依然として若者世代の動向が社会減全体に大きな影響を与えている状況は変わらない。今後も継続して、若者の地元定着や一度釧路を離れた若者の「帰ってきたい」希望がかなうまちづくりとともに移住人材の呼び込みにも取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

## 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の検証

## 1. 数値目標の状況

基本目標	数値目標		現状値	実績値
【基本目標3】 子どもを生き育てたいという希望をかなえる	出生数	1,500人 (H31(R1)年)	1,158人 (H26年)	1,020人 (H30年)
	合計特殊出生率	1.50% (H29～32(R2)年平均)	1.35% (H20～24年平均)	—

## 2. 主なKPIと状況分析

KPI		現状値	実績値	分析
子育て支援拠点センター延利用者数	4万人以上の維持	41,481人 (H26年度)	48,382人 (H30年度)	子育て支援拠点施設の増設により、利用者の利便性が向上し、利用者数の増加に繋がった。
0歳児保育の拡充 (待機児童数)	待機児童「0」 (H29年度)	55人 (H26年度)	0人 (H30年度)	0歳児の受入体制拡充により、待機児童の解消を図ることができた。
ファミリー・サポート・センター会員数	10%増 (対H26年度比)	981人 (H26年度)	1,226人 25%増 (H30年度)	学童保育及び保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かりが増加した。
健診おたすけプランによる託児サービスにより健診受診を希望した人数	20%増 (対H27年度比)	41人 (H27年度)	86人 110%増 (H30年度)	託児サービスの回数を増やすとともに、広報くしろでのPR等により、健診利用者への周知が図られた。
特定目的住宅「子育て世帯向け住宅」の戸数	40戸	なし (H27.9)	50戸 (H30年度)	定期的な公募により、制度について認知されてきており、子育て世帯の入居促進が図られた。

## 3. 施策の推進状況

推進状況
<p>・安心して子どもを生き育てられる環境づくりに向け、妊婦健康診査費用の助成額拡充や産後ケア事業、多子世帯への保育料負担軽減や利用者支援事業などに取り組んだ。また、放課後児童クラブの学齢拡大、ファミリー・サポート・センター事業の実施など、働きながら子育てしやすい環境の充実が図られた。</p> <p>・子どもを持つ親として、安心できる教育環境の充実を図るため、市内小学校への実物投影機の配置や指定校を対象とした復習教材による学習習慣定着の推進など、児童生徒の学力向上に資する事業を実施した。</p>

## 4. 今後の主な課題

主な課題
<p>・利用者ニーズの把握とニーズに合った子育て支援施策の提供が求められており、子育て支援情報の効果的な発信・収集が課題となっている。</p> <p>・妊娠、出産、育児に関して、不安を持つ子育て世代もおり、マタニティ講座において引き続き普及啓発を図る必要がある。また、マタニティ講座参加者同士での自然な交流が図られるよう、不安解消に役立つ講座を目指す。</p> <p>・子育て世帯や子供を産み育てたいと希望を持つ世帯の住環境の充実を図るため、今後も特定目的住宅「子育て世帯向け住宅」の施策を継続していく。</p> <p>・数値目標である出生数については、H30年は前年より増加したものの、総合戦略開始当初からは大きく減らしており、20～39歳までの若年女性人口が年々減少していることを考慮すると、今後も減少傾向は続くものと思われる。出生数を確保するためには、合計特殊出生率の向上を図ることもさることながら、親になる世代を確保することが、最優先に取り組むべき課題となっている。</p>

## 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の検証

## 1. 数値目標の状況

基本目標	数値目標		現状値	実績値
【基本目標4】 安心な暮らしをつくる	医療従事者数	4,000人 (H32(R2)年)	3,960人 (H24年)	4,149人 (H28年)
	特別養護老人ホーム定員数	819人 (H29年度)	729人 (H26年度末)	824人 (H30年度末)

## 2. 主なKPIと状況分析

KPI		現状値	実績値	分析
「医療・介護連携シート」等を利用する医療機関数	16か所	なし	40か所 (H30)	地域包括ケアシステムの構築に向けた、「医療・介護連携推進事業」の中で取り組んだ、意見交換会や研修会の開催などにより、医療と介護の連携が進み、「釧路市つながり手帳」を利用する医療機関が増えた。
特別養護老人ホーム定員数に対する在宅重度の待機者数の割合	18%以下	18% (H27年2月末)	14.4% (H31(R1)年2月1日)	第6期及び第7期釧路市介護保険事業計画に基づき、計画通りに施設整備が実施されたことに加え、認知症高齢者グループホームや介護付き有料老人ホーム等の居住系サービスの拡充を図ったことによるもの。
介護人材の確保に係る事業参加者の資格取得者数の割合	90%	83% (H26年度末)	75% (H30年度末)	対象事業所数を増やす等、受入窓口の拡大を行うことで、新たな介護人材が掘り起こされ、継続雇用には至っているものの、体力的な問題やイメージの相違等により、依然として中途離職者が発生している。
人口10万人対医療従事者数	看護師の維持又は増加 (H29年)	1,198.4人 (H24年)	1,237.2人 (H27年)	市内に看護学校が4校と充実しているため、看護師の維持・確保につながっている。

## 3. 施策の推進状況

推進状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が続く中、医療従事者数については、一定程度維持されており、夜間・休日の医療体制の確保や、医療・介護連携シートの利用拡大など、地域の医療サービスの充実が図られた。</li> <li>・特別養護老人ホームについては、第6期及び第7期介護保険事業計画のもと、今後の高齢化社会の動向を見据え、計画通り整備が図られた。また、人材不足が課題となっている介護従事者については、介護人材確保育成支援事業を実施したほか、有資格者の介護現場への復職を支援する介護潜在人材復職支援事業を実施するなど、介護人材の確保・育成に努めた。</li> </ul>

## 4. 今後の主な課題

主な課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師会の協力により医療体制が確保できているが、年々、医師の高齢化が進んでおり現行体制を維持していくためにも、医師確保が課題となっている。</li> <li>・特別養護老人ホームについては、第8期釧路市介護保険事業計画策定の中で、市内介護事業所からの意向や人材の充足状況等を踏まえつつ、需要と供給のバランスを図りながら整備数を検討する必要がある。</li> <li>・介護従事者の中途離職者の減少を図るため、介護人材の確保に係る事業の参加事業所の支援体制をより充実する様、働きかけていくことが必要であり、参加者数が年々減少していることから、参加事業所等と協力しながら、より幅広い層に向けて周知を図っていくことも必要である。</li> </ul>

## 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の検証

### 1. 数値目標の状況

基本目標	数値目標		現状値	実績値
【基本目標5】 人口減少に対応した地域をつくる	人口	16万2千人 (H32(R2) 年)	176,716人 (H27年 9月末)	168,572人 (H31(R1) 年8月末)

### 2. 主なKPIと状況分析

KPI		現状値	実績値	分析
立地適正化計画策定 進捗率	100%	なし	100%	H28年度末に策定・公表し、30年度末に居住誘導区域設定等のため計画改訂を行った。
民間再開発促進事業 進捗率	100%	なし	100%	H30年度北大通地区優良建築物等整備事業が完了した。
路線バス輸送人員	現状輸送 規模を維持	554万人 (H25年度)	504万人 (H29年度)	輸送人員が毎年減少しており、持続可能な公共交通網形成のためH29年度に地域公共交通網形成計画、令和元年度に再編実施計画を策定した。
空家等除却件数	60件	60件 (H27～H29 年度平均)	68件 (H30年度)	H30年度は、68件の空家等を除却し、現状値を上回った。(H30年度KPI追加)

### 3. 施策の推進状況

推進状況
<p>・人口減少に対応したコンパクトなまちづくりを推進するため、「釧路市立地適正化計画」を策定するとともに、持続可能な公共交通網により、歩いて暮らせるまちを目指す「釧路市地域公共交通網形成計画」を策定した。</p> <p>・コンパクトなまちづくりを推進する具体的取組として、H29年度には立地適正化計画に基づく都市機能誘導区域へ対象施設を誘導する助成制度を開始したほか、R元年度には地域公共交通再編実施計画に基づくバス路線再編を実施した。</p> <p>・民間再開発促進事業(北大通3・4丁目地区での優良建築物等整備事業)の実施により、都心部地区における人口増加のほか、新たな福祉機能の導入が図られた。</p> <p>・「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき、H29年度に「釧路市空家等対策計画」を策定し、空家等の適切な管理の重要性に関する市民意識の醸成や、安全・安心に暮らすことのできる生活環境の確保を推進した。</p>

### 4. 今後の主な課題

主な課題
<p>・人口減少による地域経済や住民生活への影響を最小限にとどめ、地域で暮らす市民の満足度やまちの活力を高めるため、H30年度よりスタートした「釧路市まちづくり基本構想」における重点戦略や各分野の施策と整合を図りながら、取組を進めることが重要である。</p>